

講座「日本の近現代史」は、「留学先で近現代史に関する事項について聞かれることが多くあった。」など、次世代リーダー育成道場の修了生から寄せられた多くの感想を重視して、3回に分けて実施しています。

第14期Aコース研修生は8月18日(月)に第1回を行い、「日本の近現代史学習に当たって～歴史的事象を考察するための観点～」「近代国家日本の成立～開国から日清・日露戦争まで～」を学びました。

研修生は事前学習として、この時代に関する動画を視聴し、それを踏まえて事前課題を複数の資料で調べ、自分の考えをまとめました。

事前課題1は、「日本の近現代における「近代国家日本の成立～開国から日清・日露戦争まで～」の歴史的事象について、「歴史的見方・考え方」を働かせて調べたうえで、説明できるようにワークシートに自分の言葉で整理し表現してみよう。ただし、その説明する「近代国家日本の成立～開国から日清・日露戦争まで～」での歴史的事象については、「自由・制限」、「平等・格差」、「開発・保全」、「統合・分化」、「対立・協調」などの観点を踏まえて考え、記述してみよう。」というものでした。



事前課題2は、「明治時代、我が国は欧米列強の植民地になることなく近代国家としての道を歩んだ。日本のこの明治期の近代国家への歩み、あるいは、その歩みの中で創造された日本文化を捉えて、どのような「問い合わせ」が留学した際に出会う人々から出されるか、予測してみよう。また、その出された「問い合わせ」についての説明を「自由・制限」、「平等・格差」、「開発・保全」、「統合・分化」、「対立・協調」などの観点を踏まえながら、考えてみよう。」というものでした。

研修生は1グループ5人程度になり、授業支援プラットフォームを活用して、事前課題2で各自が取り上げたテーマを発表し、質問や意見交換を通じてグループ内で協議を行いました。そして、グループ協議の内容を全体に発表して更に協議を深めました。



研修生は我が国の国家としての成立、日本文化等、近代化の過程における人々の努力や苦労、成果や課題などについて積極的に協議して認識を深めました。

令和7年8月 18日(月)

【午後】ゼミナール①

8月18日（月）午後、第14期Aコースゼミナール研究（第1回）が、午前の日本の近現代史（講義1）に続いて行われました。

ゼミナール研究は、研修生が留学に行く前の期間と、実際に留学している期間を通して行います。地球規模の課題等にどのようにアプローチし、その当事者として解決に関われるよう、自分の興味・関心のある分野から追究していく研修です。研修生は、帰国前に研究の成果をまとめて「ゼミナール研究報告書」として提出します。

第1回ゼミナール研究では、研修生たちは先生との面談等を通して、自分が研究しようと考えてきたテーマや仮説について、それまで確認してきた内容を、少人数のグループに分かれて協議しました。

研修生たちは、事前に考えてきたテーマや仮説などについて、協議を通して多角的な視点から客観的に捉えることができたようです。また、この研修では、協議を通して学んだことをさらに深めるために、振り返りシートを活用し、今後の取り組みの向上を図りました。

最後に、ゼミナール研究の担当者から次回の課題である「ゼミナール研究のアウトライン」の作成方法と、研究のために使用する資料を記載する「関連資料記入用紙」提出について説明がありました。

第1回のゼミナール研究で研修生たちは、ゼミナール研究を始めるにあたり、適切な研究テーマの設定、現状と課題の捉え方、情報収集の方法や研究の手順などを学びました。

